

# 令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	24	学校名	富士北稜高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	552	名
スクールポリシー (学力に関するもの)	1 基礎的な知識・技能をベースにして、生徒が意見を交換したり、発信したり、交流したりすることによって、学力面だけではない生徒一人一人の個性や能力が発揮され、多くの生徒の活躍が保障される授業を目指します。 2 「周囲との協働」と「一人での思考」のサイクルを繰り返すことによって、考えを進化・深化させることを重視します。 3 ICT や AI 等を活用しながら、正解のない問いに対して教員・生徒をはじめ、異なる立場・世代の人たちとともに問題解決に取り組めます。							
グラデュエーション ポリシー	正解のない問いに対する答えを考えようとするを通して、新しい付加価値を創造できる人材							

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ	
○	自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
	目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
○	主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
	ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
	文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組

具体的な取組	
・相互授業参観をした教科の授業技術を自身の授業に取り入れる。	
・「よのなか科」や「エナジードコア」の授業を通してファシリテーション技術を身につけ、生徒主体の授業づくりができるような授業改善に取り組む。	

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)	R7中間	R7末
(各校の授業アンケートに基づく)		
1.自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	63.5%	65.5%
2.任用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	57.5%	59.6%
3.授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	58.4%	57.2%
4.授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	54.5%	54.8%
5.授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	65.2%	67.4%
6.授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う)	60.1%	60.9%
7.授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う, ②そう思う)	55.7%	60.4%
8.他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	66.2%	69.2%
9.学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	60.8%	62.8%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度への取組を含む)	
中間報告を受けてからそれぞれの教科で反省のもと取り組んだ結果、概ねどの項目もポイントが上がっていた。しかし、探究学習で身につけたことを教科の授業やそのほかの学校生活へと活かされていない。生徒自身が取り組んでいるが、探究学習の素養を活用していると意識できていないことがアンケート結果に出ていると思われる。学校独自で行っているアンケートでは、生徒の「総合的な探究の時間」に対する意欲や教員側の探究活動への理解の度合いは上がっている。それを実生活と結びつけること、結びついていることを意識させることが来年度への課題になると考えられる。	

各教科の取組	※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。			
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
国語	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。	3.9	4.0	朝の漢字小テストへ向けての漢字学習や、語彙の教材を用いた学習を授業内で行った。学んだ知識・技能を実生活や進路実現に活用できるようさらに指導を進めていきたい。
	論理的に考え、他者との関わりの中で伝え合う力を身に付けることができる。	3.9	4.0	「書く」「話す」「聞く」といった学習活動を通して、考えを分かりやすく表現したり伝え合ったりする力を身に付けてきた。考えたことを小論文などに活かすことのできる「論理力」をさらに伸ばしたい。
	読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けることができる。	3.8	3.9	図書館での授業を行う、授業に「ブックトーク」を取り入れるなど本や読書に親しむ機会を授業で設けた。自分の興味関心による読書だけでなく社会や他者への理解を深めるような読書指導へと発展させていきたい。
地公	学んだ内容を理解し、たくさんの情報を調べ、そこから必要なものを選択してまとめる力。	3.7	3.8	学習したことを基礎に、探究活動を行った。教科書・ネット等から必要な情報を取り出し、協働してまとめる力が身につけてきた。発表資料作成の過程で、基礎的な学習理解が曖昧な部分へのアプローチをしていきたい。
	学んだ内容について様々な面から考え、判断し、考えたことを話し合う事ができる力。	3.8	3.9	「刈ッ」「デメリッ」など、視点をかえて思考し、班で共有することで、多面的に考える力が身につけてきた。議論することに苦手な様子があるので、議論へのアプローチの方法を考えていきたい。
	学習を通してよりよい人間関係性つくろうとし、社会づくりに参加しようとする態度。	3.8	3.9	班での学びあいを通しよりよい人間関係を形成してきた。時事問題を取り上げることで、現実社会に対する意識を持つこともできた。どのように社会参加につなげていくのか、縦断的な学び構成を明確にしていきたい。
数学	基本的な計算能力を高め、数学的思考が生活に活かせるように育成する。	3.8	3.8	マナトレを用いて、基本的な計算能力を高めるよう指導してきたが、次年度も計算の正確さと速さを高め、学んだ内容を身近な生活場面に結び付けて考え、判断できる力の育成を目指す。
	数学的な考えを日常的に利用し、あらゆる場面に対応できる力をつける。	3.4	3.6	評価は上がっているが、次年度も授業や課題研究などを通して数学的な考えを用いて問題の意味を捉え理由や根拠を説明しながら、日常生活を含む多様な場面で適切に判断・対応できる力を育てたい。
	数学の学習を通していろいろなことに興味関心を持てるようにする。	3.5	3.6	数学の学習を通して、身近な事象や問題に関心をもって取り組む姿が見られた。一方で、興味・関心に個人差があるため、次年度は学習内容と生活とのつながりをより意識した授業展開が必要である。
理科	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な方法や技能、知識を身に付けることができる。	3.7	3.9	年間を通じて大切な事項等について、定着率が上がっている様子が見える。初出時の時点でより定着することが、以降の授業の理解度に繋がることも踏まえ、小テスト等も活用しながら早い時期に定着させることを目指す。
	自然の事物・現象について科学的に考察し、論理的に表現することができる。	3.6	3.7	科学的考察や論理的表現の土台として、既習事項との繋がりがから考える場面で学習を進めるにつれて増えていったことが評価の向上に繋がったと考えられる。単元ごとの関連性を意識させるような授業を展開することで、この観点の向上にも繋げていきたい。
	自然の事物・現象について関心を持って主体的に関わり、科学的に探究することができる。	3.6	3.8	評価は上がっているものの、手応えとしては学習内容の難化に伴い主体的に学ぶ気持ちが減少していくように感じている。難しい内容でも、主体性や探究心を生徒に持たせられるような、興味を惹くような授業を展開できることが望ましい。
英語	実際のコミュニケーションでの目的や場面、状況などに応じて音声・語彙・表現・文法・言語の働きの知識を適切に活用できる技能を身に付ける。	3.6	3.8	授業内では、各単元の終了時に単語テスト等を実施し、基礎的な語彙力の定着を図った。今後は、既習語彙を実際の場面に応じて適切に活用できるように、指導をさらに充実させていく。
	情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。	3.7	3.8	英文の読解を通して知識・技能を習得し、それを基にした表現活動を行う力の育成に努めた。今後は、これらの知識・技能を活用し、英語によるやり取りができる力の醸成を目指す。
	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	3.6	3.8	ALTとのディームティーチングを通して、外国の多様な文化に触れる機会を提供した。今後は、自国の文化について、英語で発信する機会を設け、表現力の育成を図る。
芸術	作品ごとの歴史的背景について学び、その表現方法について理解し、そこから自分らしい表現方法を見つけ出す。	3.8	3.9	予め歴史的背景等をまとめておき、生徒に理解しやすいように準備し、時短を図っていく。
	作品ごとの特徴を理解し、それぞれの表現方法を比較する。	3.8	3.9	作品ごとの特徴に基づき、個々の生徒独自の表現方法がある程度自由に取り入れ、相互評価していく。
	様々な作品に触れ、文化に関心を持ち、自己表現をすることや、作品を鑑賞する喜びを味わい、芸術を自分なりに評価する態度も養う。	3.8	3.9	なるべく多くの作品に触れさせ、自己表現できるようにしていく。他の生徒の作品だけでなく、有名な作品も沢山鑑賞し、そこから芸術文化に関心を持てるように心がける。
家庭	家庭生活をより豊かにし、自己管理能力を高めるための、基礎的な知識や技術をしっかりと習得させる。	3.8	4.0	基礎から順を追って学ぶことで、理解や技術が段階的に着実に身につく様子が見られた。
	グループ活動やディスカッションを通して、他者との対話を大切に、協働しながら問題を解決する力を養う。	3.6	3.8	生活に関わるさまざまな事象について、統計や科学的データを基に判断・考察する方法を身につけた。後期には単元を横断した問いかけにも積極的に思考を深める姿が多く見られた。
	家庭科の授業を通して、家庭内外でのコミュニケーションや人間関係の重要性を理解し、主体的に考えて行動できる態度や価値観を育む。	3.6	3.8	前期と比べて学習方法の理解が進み主体的に学習へ取り組む姿が見られるようになってきた。しかし、依然として自ら課題を見つけたら、解決方法を工夫したりする段階には到達しておらず、より高いレベルの主体性にはまだ課題が残っている。
保体	各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につける。	4.1	4.2	年間を通して様々な種目を経験することで、各種目の特性に応じた技能を来年度も身につけられるようにしていく。個人だけではなく、周囲の健康・安全にも配慮した行動ができるようになっていく。
	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的に解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	4.0	4.1	ノートや授業での話し合いを通じて、自他や社会の課題について考える機会が増えた。今後はそれを発信していく力を身に付けていくよう工夫していく。
	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。	4.0	4.1	高校時代だけではなく、生涯にわたって運動を継続したり、各自の健康の保持増進と体力向上のため、3年間を通して基礎体力の維持向上や健康に対する理解を深めていく。
情報	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人とのかかわりについて理解を深める	3.8	3.9	図表を用いた視覚的な表現力については経験豊富だが、文章での表現やデータの数値化については苦手意識が強い生徒が多い傾向にある。直感的に理解できるよう、具体的な数値や視覚資料を用いて工夫していく。
	様々な事象を情報とその結びつきとしてとらえ、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切に活用できる	3.7	3.9	数学・科学分野で苦手意識が強い生徒が多く、情報分析や統計、デジタルデータの特徴などを捉えることが課題である。次年度はBYODを活用し、体験的な授業を多く実施していく。
	情報と情報技術を適切に活用するとともに、関連法規を遵守し、情報社会に主体的に参画する態度を養う	3.7	3.9	情報セキュリティ技術やネットリテラシーについて、実生活において実践できる内容が多いため、知識の習得とともに実践的な理解ができていた。次年度は法整備や具体的な事例を多く取り上げた授業を展開していく。
総探	社会の課題を発見し、テーマを設定して解決のための情報を選ぶことができる。	4.0	4.0	テーマ設定は毎年の課題となっているが、指導教諭の教材への慣れも出てきているので、今年度のものをより促進させていきたい。
	課題解決のための思考力、判断力、表現力(OUTPUT力)を持つことができる。	4.0	4.0	課題解決が、例えばSNS発信というような短絡的な方法で終わらないように、多面的な考え方ができるように指導する工夫を構築していく。
	グループで協働して解決しようとしている。	4.2	4.1	協働的な活動がより進むようなプログラムの設定を計画する。

